



チョン・ダウン

所属: Giraffe Pictures

職位: 監督

住所:

3F 91-11 Sopa-ro, Jung-gu, Seoul
South Korea

連絡先:

Tel: +82-2-3789-0374

Mobile: +82-10-2006-0374

Email: tatedawoon@gmail.com



キム・ジョンシン

所属: Giraffe Pictures

職位: プロデューサー

住所:

3F 91-11 Sopa-ro, Jung-gu, Seoul
South Korea

連絡先:

Tel: +82-2-3789-0374

Mobile: +82-10-2006-0374

Giraffe Pictures

住所:

3F 91-11 Sopa-ro, Jung-gu, Seoul
South Korea

連絡先:

Tel: +82-2-3789-0374

伊丹潤の海

作品概要

이타미 준의 바다 | the Sea of Itami Jun

監督: チョン・ダウン | プロデューサー: キム・ジョンシン | 製作会社: Giraffe Pictures | シナリオ: オリジナル
作品区分: ドキュメンタリー | ジャンル: 建築ドキュメンタリー | 製作形式: UHD | 使用言語: 韓国語、日本語
撮影予定日: 2015. 04. 01

直接制作費(KRW): 150,000,000 | 確保済み制作費(KRW): 70,000,000

共同製作 希望形態: 共同製作 | シナリオ: 5

プロジェクトの進行状況:

2012年1月、映画社 Giraffe Pictures(キリングリム)設立、伊丹潤の長女ユイファ所長と「伊丹潤の海 - the Sea of Itami Jun」の映画化及び製作について協議。2013年、国立現代美術館 建築館の展示「風の造形: 伊丹潤」展示映像撮影。2014年1月~8月、「風の造形: 伊丹潤」展示オープン及び展示映像「もう一つの水、風、石 - Another Water, Wind, Stone」上映。2014年5月、「伊丹潤の海 - the Sea of Itami Jun」済州島映像委員会の製作支援作選定 - 2千万ウォン支援。2014年6月、「伊丹潤の海 - the Sea of Itami Jun」本格的プロダクション、スタート。2014年10月、在日韓国人の音楽家「ヤンバンオン」の音楽パート参加提案及び協議中。2014年12月、「伊丹潤の海 - the Sea of Itami Jun」済州島ロケ撮影終了。2015年2月、日本の製作会社と日本ロケの製作 支援及び韓国共同製作について協議中。2015年3月、在日韓国人音楽家「ヤンバンオン」の音楽パートへの参加が決定、済州島でインタビュー撮影開始。2015年6月、東京で建築家・坂茂が伊丹潤の知人のインタビュー、及び東京や清水等の現地調査。2015年9月、北海道の現地調査。

製作計画書:

- ▶ 作品の企画意図—伊丹潤は日本で生まれた在日韓国人の建築家であり、一生を韓国と日本の境界人(マージナルマン)として生きてきたが、自分の道をまっすぐに歩んできた人物だ。彼の建築は、日本では韓国人という理由で、韓国では日本的だという理由で認められなかった。しかし彼はただの一瞬もあきらめることなく自らの建築スタイルを磨き、末年に至っては世界的に認められるようになった。心の故郷として済州島を愛した伊丹潤は、生涯の力作を済州島に残すことになるが、人生の最後を済州島の西帰浦(ソギポ)の海が見える場所に小さな家を建てて過ごしたいという最後の願いは叶えられずに東京で息を引き取った。この映画は、伊丹潤のスローな生き方と熾烈な人生の旅程を紹介し、彼が残した建築物と共に、彼の建築哲学と人生物語を聞かせてくれる。彼が一生をかけて作り上げた建築の世界は、自然と建築が調和を成し、光と闇が空間を共有し、伝統と未来をつなぐ…韓国と日本の建築が伊丹潤という名前で行き交わった。伊丹潤を知る人々は、彼が人情味溢れた心温かいヤンバン(朝鮮時代の官僚)のようであったと表現する。坂茂は伊丹潤の建築にはあたたかで魅力的な彼の人間性が表れていると言う。時代の流行に流されない、時が過ぎても変わらない、あたたかな空間を創造した伊丹潤は、建築への関心が徐々に高まる韓国社会において、建築が人と自然にとってどうあるべきかを問う。出発時点から多くのことを奪われて歩き始める若者たちに、伊丹潤の人生と建築の持つゆるやかで温かなエネルギーは、私たちが失いつつある価値について顧みる契機となるだろう。
- ▶ 製作の方向性—建築家は建築で語る。この映画もやはり、建築物そのものに込められた物語に耳を傾けさせる映画だ。伊丹潤にとって建築とは、自分自身の物語が込められた媒体であり、建築そのものがまさに伊丹潤なのである。この映画は、伊丹潤の主な建築物を一つ一つ紹介しながら、その中に込められた物語を伊丹潤の言葉を通して伝える。建築にまつわるエピソードと彼の建築哲学に耳を傾けながら、いつしか、人間・伊丹潤とその人生が垣間見せた真の価値に到達することだろう。伊丹潤の建築を美しく正確に見せるために、この映画は一般的なドキュメンタリーに比べて多くの撮影設備が必要となる。(ヘリカム、ジミー、ステディカム、等)。そして季と時間帯によって変化する建築の姿を撮影するために、撮影日程も四季の中で可変的であるため、スタッフは必要最低限で作業し、可変的スケジュールと制作費に対応したい。「伊丹潤の海」は4Kで撮影するため、今浮上しているUHDコンテンツ市場において、自然と共に生きた伊丹潤の建築の専門的で美しい映像は十分な競争力を持ち得るだろう。
- ▶ 資金調達の現況及び計画—直接制作費-1億5千万ウォンのうち確保済み制作費7千万ウォン、済州島映像委員会製作支援-2千万ウォン、建築事務所 the frame 後援金-1千万ウォン、giraffe pictures自己投資-4千万ウォン、調達計画-伊丹潤建築文化財団記念館オープン及び「伊丹潤の海」後援会の行事。クラウドファンディング及び映画制作支援事業に支援申請。
- ▶ キャスティング及びスタッフ構成—ユイファ所長-ITM建築事務所/伊丹潤建築文化財団所長であり伊丹潤の長女である。ヒダリさん-伊丹潤の初のクライアント、済州島の西帰浦市が故郷である在日韓国人。伊丹潤に、西帰浦に生涯の残りを過ごす家の設計を依頼したが実現できなかった。キム・ホンジュ会長-伊丹潤の最後の傑作である済州島プロジェクトの建築オーナー、本家がまどや会長、両親のふるさである西帰浦に武陵桃源のような生態都市を作りたいという夢の設計を伊丹潤に依頼した。ヤンバンオン:伊丹潤と同じ在日韓国人であり済州島が故郷である。風から多くのインスピレーションを得る音楽家ヤンバンオン、伊丹潤に贈る「風の歌」でこの映画に参加する。坂茂:建築界のノーベル賞「プリツカー賞」を2014年度に受賞した。坂茂が伊丹潤を思い出しながら彼の人間性と建築哲学を語る。パク・ギルリョン-国民大学建築学科名誉教授/映画の中の映画シーンで伊丹潤のように見える老紳士役。スタッフ及び監督-監督:チョン・ダウン、プロデューサー:キム・ジョンシン、撮影監督:チュ・ギョング(ソウル芸術大学卒業、韓国映画アカデミー撮影専攻、「慶州」「ピエタ」「ジスル」等に参加。テーマ曲-ヤンバンオン)
- ▶ 国内外配給計画—韓国国内劇場公開、テレビ放送権契約、IPTV UHD 放送コンテンツ。配給—日本の出資規模を考慮した上で配給権を契約。